

# ここから広げよう!! 各学部の先生からのオススメ本 READING LIST

## 人文学部 吉野 由起 先生



ディケンズ 著 ; 佐々木徹 訳  
『大いなる遺産 上・下』

(河出文庫)

河出書房新社, 2011年7月

【所在】 図・開架・図書

【請求記号】 933/D72/1 933/D72/2

【OPAC】 <http://opac.lib.mie-u.ac.jp/opc/recordID/catalog/bib/BB06228374>

19世紀、空前の繁栄とともに人間社会の様々な問題を抱えた英国には、絢爛で陰翳をおびたヴィクトリア朝文化が展開しました。本作品は、この時代を生きた文豪ディケンズが本領を発揮した名作といわれています。貧しい少年ピップは、運命的な出会いを経て、立身出世を目指します。ロンドンという浮世を舞台に、すれ違いも起こる修行の旅、青年となったピップのたどり着く場所は。

## 教育学部 松本 昭彦 先生



桃崎有一郎 著

『武士の起源を解きあかす：混血する古代、創発される中世』 (ちくま新書)

筑摩書房, 2018年11月

【所在】 図・開架・図書

【請求記号】 210.36/Mo27

【OPAC】 <http://opac.lib.mie-u.ac.jp/opc/recordID/catalog/bib/BB27141886>

書名の通り、日本史上の難問である「武士の起源」を、平安前期の中央・地方の政治経済状況から解明しようとしたもの。武士の士を「士大夫」の「士」ととらえて「六位程度の武人集団」と定義し、中央の「王臣子孫」と地方の「有閑弓騎」とが結合してできあがる過程を詳述する。圧巻は地方政治の頹廃が胚胎する武士成立の環境である。高校までの日本史ではあまり扱わない地方の政治状況を知る上でも非常に有益な書である。

## 医学部 今井 奈妙 先生



エーリッヒ・フロム 著  
鈴木晶 訳

『愛するということ』新訳版

紀伊國屋書店, 1991年3月

【所在】 図・書庫

【請求記号】 141.6/F48

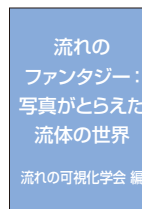
【OPAC】 <http://opac.lib.mie-u.ac.jp/opc/recordID/catalog/bib/BN06201055>

人文学部の学生だった頃に読んだ思い出の書籍。

フロムは、愛することは技術で、それを上手に行うためには、理論を学んだ上で訓練を要すると言う。日常の様々な愛の形を例にとり、愛が人間にとっての究極の課題であると説く。

もし、あなたが、人を愛することなど誰もが自然に出来る行為だと勘違いし、愛することよりも愛されることにエネルギーを使っているのならば、お勧めしたい一冊である。

## 工学部 前田 太佳夫 先生



流れの可視化学会 編

『流れのファンタジー：写真がとらえた流体の世界』 (ブルーバックス)

講談社, 1986年6月

【所在】 図・開架・図書

【請求記号】 423.8/N19

【OPAC】 <http://opac.lib.mie-u.ac.jp/opc/recordID/catalog/bib/BN0060724X>

空気や水は透明であるため、流れの様子を知る機会はありません。しかし、その流れに色を付けたり、粒子を流したりすると、実に面白い動きをする。この本は自動車や航空機等の交通機械の流れのほかに、魚や鳥等の生物やスポーツ選手の流れ、海洋や砂漠の風紋等の自然現象の流れ、そして実験では観察することができないコンピュータで作り出す不思議な流れを美しく魅力的に示している。

## 生物資源学部 木佐貫 博光 先生



村上春樹 著

『走ることにして語るときに僕の語ること』

(文春文庫)

文藝春秋, 2010年6月

【所在】 図・開架・図書

【請求記号】 914.6/Mu43

【OPAC】 <http://opac.lib.mie-u.ac.jp/opc/recordID/catalog/bib/BB02334314>

言わずと知れた著者のメモワール(回顧録)。処女作「風の歌を聴け」や「羊をめぐる冒険」が執筆されたときの著者の置かれた境遇は意外である。その後、職業としての小説家となった著者が、コツコツと小説を書くこと、マラソンやトライアスロンで完走し続けることを重ね合わせる。もし忙しいからというだけで走るのをやめたら、間違いなく一生走れなくなってしまう。まさにその通りだ。

## 教養教育院 赤岩 隆 先生



宮沢賢治 著 ; 天沢退二郎 編

『新編宮沢賢治詩集』

41刷改版 (新潮文庫)

新潮社, 2011年4月

【所在】 図・開架・PB

【請求記号】 911.56/Mi89

【OPAC】 <http://opac.lib.mie-u.ac.jp/opc/recordID/catalog/bib/BB07069866>

宮沢賢治と聞けば、なにをいままらと思うのが普通だろうけど、だからこそ読んでみよう(読めるかな。これが意外と難しい)。読みどころは、「アメニモマケズ」の作者は、意外にも、じつは理系で、そのめざしていたところは、ただの文学的な詩ではなかったように疑われる点です。「心象スケッチ」、賢治はいいなをしようとしていたのだろうか。